

## XXII. 母乳哺育児の体重測定テスト

### 1. The Cochrane Library の結論

Systematic review withdrawn

### 2. 世界保健機関 (WHO) の勧告

記載なし。

### 3. 検討したデータベース・文献

1. The Cochrane Library 2002 Issue 4 (RCT 1)
2. Evidence for the Ten Steps to Successful Breastfeeding (WHO1998) (RCT 1)
3. 医学中央雑誌 RCTなし
4. Breastfeeding and Human Lactation (Jones and Bartlett 1999)
5. Postpartum Care of the Mother and Newborn: a practical guide (WHO 1998) 記載なし
6. プリンシプル産科婦人科学2 (メジカルビュー社)

### 4. 検討結果

#### (1) 結論

授乳前後に体重測定を行なうと、母乳哺育の持続期間を減少させる可能性がある。

#### (2) 根拠となる報告の質

無作為化介入試験 Centuori S, et al. 1999

#### (3) 日本におけるデータの質

記述研究  
専門家の意見

#### (4) 日本における利用状況 (推定を含む)

一般的

#### (5) 日本における教科書記載の有無

なし

#### (6) 日本におけるガイドラインなどでの採用の有無

なし

#### (7) 選択された特別なグループに対する有効性の検討

なし

#### (8) 医事紛争裁判における評価 (推定を含む)

なし

### 5. 担当者氏名: 戸田律子

### XXIII. 授乳時の清浄綿の使用

#### 1. The Cochrane Library の結論

記載なし

#### 2. 世界保健機関（WHO）の勧告

記載なし。

#### 3. 検討したデータベース・文献

1. The Cochrane Library 2002 Issue 4 RCT なし
2. Evidence for the Ten Steps to Successful Breastfeeding (WHO 1998) 記載なし
3. 医学中央雑誌 RCT なし
4. Breastfeeding and Human Lactation (Jones and Bartlett 1999) 記載なし
5. Postpartum Care of the Mother and Newborn: a practical guide (WHO 1998)
6. プリンシプル産科婦人科学 2 (メジカルビュー社)
7. 乳房管理学 (諏訪メディカルサービス、1997)

#### 4. 検討結果

##### (1) 結論

授乳時の清浄綿を使った清拭の前後で、同様の細菌の検出が見られることから、清浄綿の使用は細菌感染予防に無効である。

##### (2) 根拠となる報告の質

計画された介入試験 吉留厚子、他、1997、2001

##### (3) 日本におけるデータの質

計画された介入試験  
専門家の意見

##### (4) 日本における利用状況（推定を含む）

一般的

##### (5) 日本における教科書記載の有無

あり  
乳頭は清潔に保つように心がけるが、特に薬剤による消毒は必要ない。(プリンシプル産科婦人科学 2)

##### (6) 日本におけるガイドラインなどでの採用の有無

なし

##### (7) 選択された特別なグループに対する有効性の検討

なし

##### (8) 医事紛争裁判における評価（推定を含む）

なし

#### 5. 担当者氏名：戸田律子

## XXIV. 乳房症状改善のための母乳哺育をしない母親に対するプロモクリプチン投与

### 1. The Cochrane Library の結論

なし

### 2. 世界保健機関 (WHO) の勧告

なし

### 3. 検討したデータベース・文献

1. FDA MOVES TO END USE OF BROMOCRIPTINE FOR POSTPARTUM BREAST ..... Aug. 17, 1994 (301) 827-6242 FDA MOVES TO END USE OF BROMOCRIPTINE FOR POSTPARTUM. <http://www.fda.gov/bbs/topics/ANSWERS/ANS00594.html>
2. パーロデル 2.5mg 錠 添付文書

### 4. 検討結果

#### (1) 結論

#### (2) 根拠となる報告の質 記述研究 専門家の意見、等 その他

(3) 日本におけるデータの質  
パーロデルは産褥性乳汁分泌抑制、乳汁漏出症の保険適応になっている。したがって、過去にランダム化試験が実施されたはずである。

#### (4) 日本における利用状況 (推定を含む) 一般的 (プロモクリプチンあるいはテルグリド《テルロン》)

(5) 日本における教科書記載の有無  
あり  
乳汁分泌過多症は治療の対象となるが、プロラクチンの分泌抑制剤のプロモクリプチンを投与して、分泌量を減少させて授乳を続けるか、高度の場合はやむをえず完全に授乳を停止させる (エッセンシャル産科学婦人科学、医師薬出版、562 ページ)。

#### (6) 日本におけるガイドラインなどでの採用の有無 あり (日本産婦人科医会報)

#### (7) 選択された特別なグループに対する有効性の検討 なし

#### (8) 医事紛争裁判における評価 (推定を含む) なし

### 5. 担当者氏名：北井啓勝

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍：該当なし

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
中村好一	予防と疫学研究：エビデンスをつくるために	EBM ジャーナル	4巻1号	8 - 11	2003

20020339

以降は雑誌/図書に掲載された論文となりますので、  
P.380の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。